

第1回次世代医療ICT基盤協議会
説明資料(菊地)

ICT基盤利活用に基づいた
「日本式医療」の創生
— 医療機器海外展開に及ぼすインパクト

公益財団法人 医療機器センター
理事長 菊地 眞

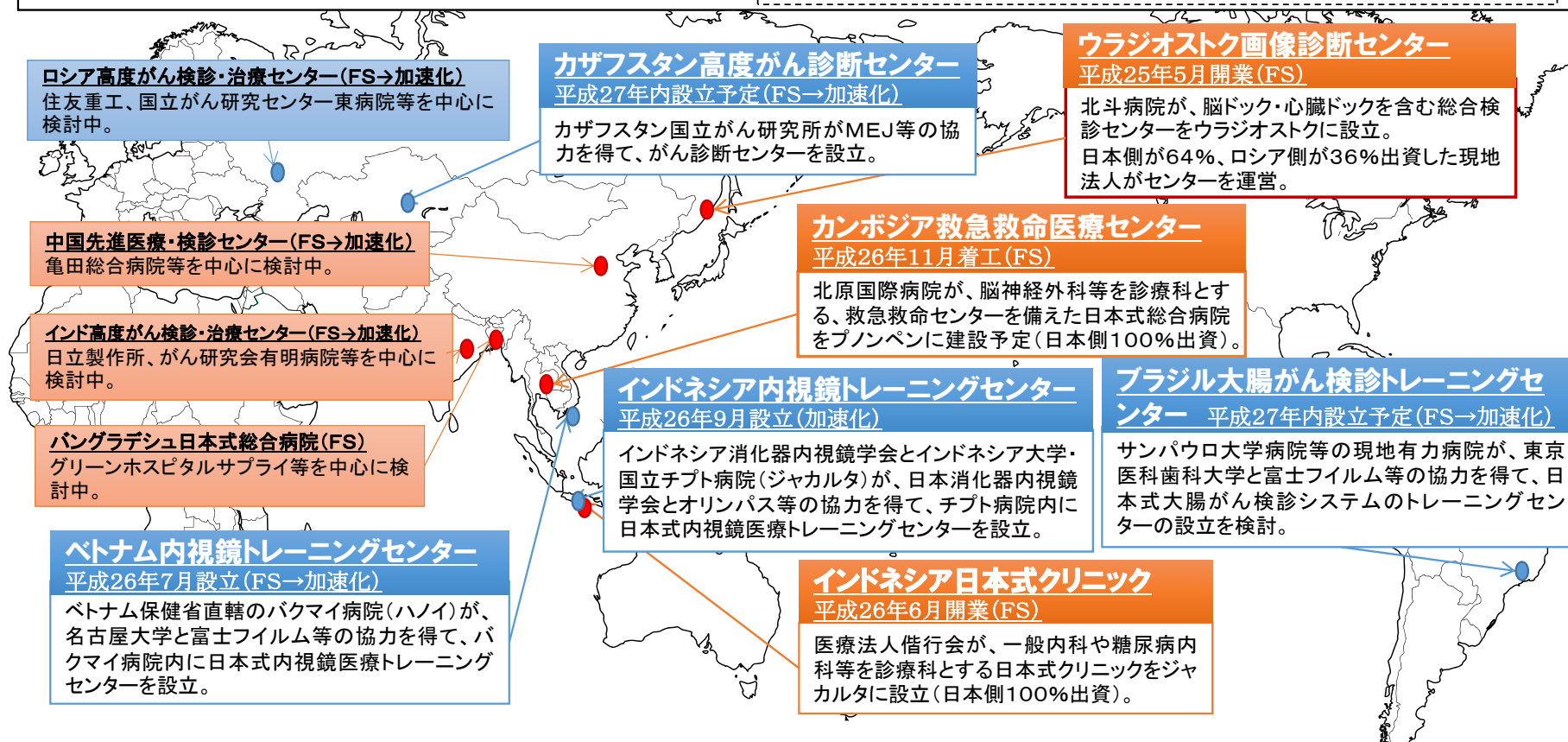
新たなビジネスモデルの創出に向けた経済産業省の取組状況

○経済産業省が実施中のアウトバウンド実証事業では、**新たなビジネスモデルに基づくプロジェクト**を組成。

- ①「**病院まるごと輸出**」モデルの多様化: 事業・投資リスクの適切な分担を図るプロジェクトモデルの構築
- ②**医療人材育成を通じた販路開拓**: ティーチングホスピタル(※)等にトレーニングセンターを設立

(※) 専門分野の教育・研修を行う現地中核病院

実現 検討中 : 「病院まるごと輸出」案件 実現 検討中 : 「医療人材育成」案件



ティーチングホスピタルを活用した取組事例：インドネシア

- 日本とインドネシア双方の学会・大学・企業が協力し、ティーチングホスピタルである国立チプト病院に、日本式内視鏡医療トレーニングセンターを設立。
- 同センターにおいて、神戸大学医学部の医師によるインドネシア人医師への実技指導や日本での研修受け入れを実施。また、トレーニングを修了した医師を、インドネシア消化器内視鏡学会が、最新の内視鏡医療に関する技能を習得した医師として認定する制度を創設。
- ティーチングホスピタルで日本製内視鏡を用いたトレーニングを実施することにより、日本式内視鏡医療を普及・拡大させ、インドネシアで不足している内視鏡医の育成と日本製内視鏡の販路拡大を図る。

①日・インドネシア双方の関係者がプロジェクトを組成。

【日本側】

- ・日本消化器内視鏡学会
- ・神戸大学
- ・オリンパス

【インドネシア側】

- ・インドネシア消化器内視鏡学会
- ・インドネシア大学
- ・国立チプト病院

②チプト病院内に日本式内視鏡トレーニングセンターを設立。



※設立費用の一部を経済産業省が補助。

③インドネシア人医師のトレーニングを行い、修了した医師を認定。



今後の対応の方向性

- **民間事業者の創意工夫を促すとともに、関係省庁の取組とのより効果的な連携を図ることで、官民が一体となって医療国際展開を戦略的に推進していく。**

(1)「病院まるごと輸出」(日本式医療拠点整備)モデルの多様化

- **日本式医療サービス・日本製医療機器の「ショーケース」になり得る案件を優先的に支援。**
- **日本側のみが出資する案件だけでなく、現地パートナーとの共同出資等の案件も積極的に支援。**
- **政策金融機関等による出資・融資の活用を推進。**

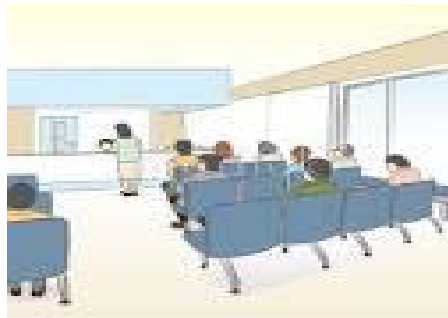
(例)・JICAによる融資の活用。
・産業革新機構による出資の活用。

(2)医療人材育成・制度構築等を通じた医療サービス・機器の販路開拓

- **学会、大学附属病院・医学部等医療機関との連携に基づく取組を支援。**
- **医療人材育成とパッケージ化された取組を支援。**
(例)ティーチングホスピタル等に日本式医療のトレーニングセンターを設立。
- **対象国の制度整備に繋がる取組を支援。**
(例)・日本式医療を習得した医師の認定制度の創設
・機器の性能検定制度の創設
- **ODA事業との相乗効果を活かせる取組を強化。**
(例)ODAで支援した医療機関に日本式医療を提供する拠点を構築。

今後の医療機器産業の振興 — “海外展開が成否の鍵！”

新興国における医療インフラ整備の真の課題：ベトナム



②患者が来る(待合室に患者があふれている)

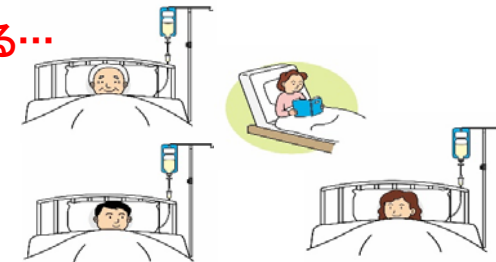
①病院を建てる



③診察し、(比較的安易に)入院させる。

**病院を立て続け
なければなら
ない！！！！**

しかし、予算には限度があり、医療人材も限られている…



④ベッドを埋める(結果、すぐに病床が足りなくなる)

「日本式医療」とは一体何なのか？

【問題意識】

- 現在、医療機器・サービスを含めた「日本式医療」「日本製医療機器」は、どのような強みを持ち、競合とどのような差別化がなされた上で、輸出されているのだろうか？
- 日本が提供している「価値」は、新興国等にとって、真にニーズに沿った内容になっているのだろうか？
- 「個」で海外展開がなされている中、対象国への程度貢献できて(影響を与えられて)いるのだろうか？

【新しい「日本式医療」】

- 「患者に寄り添う、世界最高水準の医療を、いつでもどこでも誰でも受けられる体制・システム」。
- 具体的には、患者は、いつでもどこでも低コストで医療にアクセスができ、医師は、的確に状態・病態を把握・適切な治療を行う医療システムの確立。
- そのためには、医療インフラの最適化とコストの最小化、高い水準の診療の自動化と効率化が必要、現地医療スタッフのレベル向上に資する相乗効果を実現するシステムが肝要。
- 実現にあたっては、質・量を伴った情報収集・蓄積・活用のため、医療機器メーカーや医療現場、ICT事業者のより広範な連携・協力が不可欠。

目指すべき好循環(日本式医療として提供すべきコンテンツ)の実現に向けて

